

ふき た さ と 吹田の郷

発行/NPO法人すいた市民環境会議 事務局/〒64-0062大阪府吹田市垂水町3丁目-8-28.705 TEL/090-8375-0647 FAX/06-6338-1107 中村小夜子
会長/小田忠文 年会費/正会員(個人・団体)1,000円、正会員(法人)10,000円、購読会員1,000円、賛助会員10,000円 振込先/00980-3-28845
ホームページ <http://www3.big.or.jp/%7E5s5k/s5k.htm> 設立/1997年3月15日 編集長/古谷啓伸

今後の予定

- 11月9日(土) 家庭の環境マネジメント 参加者への説明会 8頁
- 11月9日(土)～10日(日) 大阪府環境フェアにブース参加 万博自然文化園
- 11月16日(土) 原子力発電を学ぶ ― 反対の立場から 12頁
- 楽しく学んで得する環境講座 申し込み受付中 2頁
- 11月24日(日) 「みてみよう 都市の中の里山」 吹田市立博物館
- 12月 1日(日) 「歩こう 旧吹田村はこんなまち」 吹田勤労者会館
- 12月15日(日) 「やってみよう 家族でできる省エネ」 亥の子谷コミュニティセンター
- 1月19日(日) 「作ってみよう エコクッキング」 亥の子谷コミュニティセンター
- 11月29(金) 家庭の環境マネジメント 参加者への説明会 8頁
- 11月30日(土) 美浜原子力発電所見学 申し込み受付中 12頁
- 12月 7日(土) ^{すいたくわい}メダカの田んぼで慈姑収穫祭 10:00～12:00 7頁
- 12月15日(日) 地球温暖化防止フォーラムに本会からパネリスト参加 9頁
- 12月20日(金) 会報誌28号の原稿締切り 投書・投稿歓迎 12頁
- 12月21日(土) 理事会 茨木市の忍頂寺スポーツ公園竜王山荘
- 1月25日(土) あルック吹田散策山田村コース 山田駅9時30分 7頁
- 2月 5日頃 会報誌28号を宅配
- 3月 1日(土) あルック吹田散策 吉志部コース

理事会

毎月第3土曜日に市民会館で1時30分から行なっています。理事でない方もお気軽にご参加ください。日時の変更の場合がありますのでお問い合わせください。

大阪府の「環境保全に対する意識啓発推進事業」を受託

プロジェクトチーム 小田信子

この夏、大阪府がNPOに対して提案公募型委託事業を4件募集しました。すいた市民環境会議はこの内の「環境保全に対する意識啓発推進事業」に応募しました。この部門にはすいた市民環境会議のほか4つのNPOが応募しました。一次、二次の審査を経て、すいた市民環境会議の提案が受け入れられました。

大阪府はNPOとの協働を促進するために積極的にNPOに業務委託をしようとしています。福祉関係の事業はすでにいくぶん進んでいますが、他の分野ではほとんどありませんでした。これから大阪府も多くのNPOと協働していき、府政がより身近なものになるのかもしれない。

すいた市民環境会議は吹田市とはいくつかの協働作業を受託事業としてやってきました。自然生態調査としてのツバメの巣調査、ため池の水辺の生きもの調査、ヒメボタル調査、公園の生きもの調査、街路樹調査そして観光マップ作成です。

さて今回の「環境保全に対する意識啓発推進事業」は省エネなど地球温暖化防止の施策の実行が緊急課題になっている中、府民が環境保全のための行動を起こすにはどうすればよいかということ提案するものです。

すいた市民環境会議の提案したものはチェックシートを作ることと、体験講座などを経験していただくという内容のものでした。その内容が自然環境、まち環境、生活環境という、いわゆる環境問題といわれるもののうち、複数の講座を含んでいることが合格の要因であったように思います。

この受託事業に対しては特別なプロジェクトチームを作って企画し、生きもの委員会、まちなみ委員会、生活環境委員会が実行チームとしてかかわっていきます。

体験講座は同封のちらしの「楽しく学んで得する環境講座」です。この環境講座はすいた市民環境会議のこれまでの集大成のようなものです。

一日(約5時間)という長時間ですが、それだけに内容も充実しており「受けて良かった」と思っただけのこと請け合いです。会員の皆さまの参加を期待しております。

このプロジェクトはすでに9月から取り組んでいますが、来年の2月末には終了しなければなりません。

すいた市民環境会議が大阪府の事業を受託し実行していくことで、市民(府民)の企画・運営がこれまでのものとはひと味もふた味も違うということ、大阪府が実感するような仕事をしなければいけないと理事一同気持ちを引き締めております。

吹田の七草種名決定

平 軍二 (生き物委員会)

03年度に調査を計画している吹田版「春の七草・秋の七草」の種名について、9/21 理事会終了後に拡大生き物委員会を開催し選定、更に10/3 生き物委員会で秋の草を5種追加し下記の通り決定した。

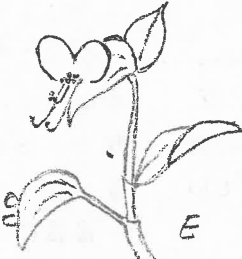
1. 選定する七草の前提条件

先ず七草選定の基準(前提条件)を討議し、考慮すべき10項目をあげた。

必要条件	①大きな花 ③季節感のあるもの ⑤身近にあるもの	②かわいい花 ④見分けやすいもの ⑥野草であること
充分条件	⑦食べられるもの ⑨調査時にわかるもの	⑧歳時記にあるもの ⑩環境の度合いが反映するもの

2. 春・夏・秋の七草選定

委員会出席者(及び事前受領の人)から推薦された春37種、秋38種の七草候補をベースに、投票数、前提条件を勘案しつつ討議した結果は下表の通りである。当初、春・秋の草のみ選定する予定でいたが、その狭間の6~7月頃に咲く花を中心に夏の七草も選んだ。(アイウエオ順に記載、●印は本来の七草を示す)

春(15種)	夏(7種)	秋(15種)
①オオイヌノフグリ ②カラスノエンドウ ●③コオニタビラコ ④シロツメクサ ⑤スマレ ●⑥セリ ⑦ダンポボ ⑧ツクシ ●⑨ナズナ ⑩ノゲシ ●⑪ハコベ ●⑫ハハコグサ ⑬ヒメオドリコソウ ⑭ホトケノザ ⑮ヨモギ	①ウツボグサ ②カタバミ ③ニワゼキショウ ④ネジバナ ⑤ヒメジョオン ⑥ミヤコグサ ⑦ツユクサ 	①アキノノゲシ ②アレチノヌスビトハギ ③エノコログサ ④キツネノマゴ ●⑤クズ ●⑥ススキ ⑦セイタカアワダチソウ ⑧ヒガンバナ ⑨ヘクソカズラ ⑩ミゾソバ 追加五種 ⑪アキノタムラソウ ⑫ツリガネニンジン ⑬ミズヒキ ⑭ヨメナ ⑮ワレモコウ

各季の種数を七草に限定しないこととし、最終的に **春15種、夏7種、秋15種** を選定した。

3. 秋の七草探し結果(吹田市桃山台~春日)

前号でお知らせした8/31の七草探しの結果は、以下の通りでした。

・観察種数	在来種草本	49種	┌	うち開花中50種
	帰化種草本	21種		
	つる植物	16種	└	
	木本	25種		
合計 111種 (52科)				

- ・特記事項
- ①秋の七草該当の植物 クズ・ススキの2種 (+植栽されたマルバハギ)
 - ②貴重種と思われる在来植物確認 アオツツラフジ・アオミズ・アキノタムラソウ・エビヅル・キンミズヒキ・ゲンノショウコ・センニンソウ・ツリガネニンジン・ナツフジ等
 - ③同定で盛り上がった種
 - i) オオアレチノギク・ヒメムカシヨモギ
 - (脚注) ii) (カヤツリグサ)・コゴメガヤツリ・アオガヤツリ・ヒメクダ
 - iii) エノキグサ
- 以上(02.10.7)

同定：動植物の分類学上の所属を決定すること

いいでしょこのまち

・都会のオアシス
アメニティ江坂

・ミスタードーナツカレッジ

【第1回 吹田市都市景観賞 選考委員】
まちなみ委員長・松岡要三】

11月19(火)には第2回吹田市都市景観賞の受賞式がメイシアターでおこなわれます。

江坂駅南西の芳野町には、第1回都市景観賞を受賞した4万2千坪の素晴らしい私設公園・季節の花々と木立と芝のグリーンに彩られたアメニティ江坂があります。「あलック吹田」で「コース外スポット」として紹介された私の好きなスポットです。

昭和32年までは紡績工場でした。時代の要請に
応えて変身し、現在に至っています。事業主の夢、
情熱、素晴らしい感性と先見性が、今日のアメニ
ティ江坂という大きな実を結んだと思います。

大正9年に天満紡績の紡績工場として発足し、
大阪金属工業の航空機部品工場として終戦を迎え
ました。

戦後の昭和26年に北海道の旭川紡績が買収し紡
績工場として再建しました。

カーニバルプラザと中華料理店翠園すいえんに残る赤レ
ンガは大正時代のもので、翠園が平成2年に大阪
都市景観建築賞を受賞した時の講評に「70才の煉
瓦造が若者に生まれ変わっている」と記されてい
ます。

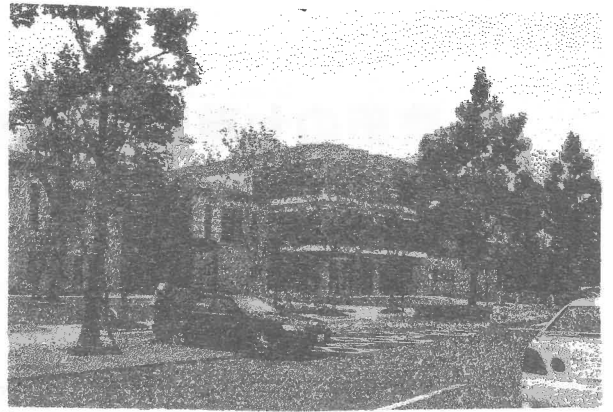
みどり豊かな空間「リーニュー・ブランシュの庭」
と美術館「スキュルチュール江坂」は知る人ぞ知
る逸品です。

フランスの彫刻家マルタ・パンが制作した白い
彫刻、モニュメント、メイズ(迷路)が、アメニ
ティ江坂に広がる緑と調和し独自の空間を演出し
ています。

美術館は、近・現代彫刻のエッセンス―ロダ
ンやジャコメッティ、ヘンリー・ムーアなど時代
を代表する作家の作品を見ることができます。

また、美術館はこれらの展示物に合わせて設計
されていて、美術館そのものが芸術作品となっ
ています。

美術館をとりまく景観も素晴らしいので、美術



リニューアル後のテニスセンターと新しいスポーツクラブ

館が平成10年に大阪府みどりの景観賞、平成13年
に大阪都市景観建築賞を受賞しています。

桃山台グランドや万博公園グランドなどが、整
備されていない時代には、アメニティ江坂の野球
場は人気の球場でしたが、平成10年に住宅展示場
「江坂住宅博」に生まれ変わりました。

本年9月、江坂テニスセンターがリニューアル
し、新たに総合フィットネスクラブ・朝日スポー
ツクラブ「BIG-S」が誕生し、従来よりのテ
ニスセンター、ゴルフセンター、ベースボールセ
ンターにスイミングプールやエアロビクススタジ
オなどが加わり、総合スポーツセンターとなりま
した。

日曜日にはカーニバルプラザの前ではフリーマ
ーケットも開かれています。

アメニティ江坂は一企業・株式会社サンリバー
が経営する施設群です。素晴らしい市民の憩いの
場であるとともに民間の活力を示す手本とも云え
ましょう。

最後に、このような素晴らしいアメニティ江坂
を運営されている事業主に対して、心から敬意を
表したいと思います。

アメニティ江坂をでた北西に、第1回吹田市都
市景観賞と平成10年の大阪府みどりの景観賞を受
賞した「ミスタードーナツカレッジ」があります。

建物は、緑と優しさをテーマに設計され、屋上
やテラスの緑化がなされています。門には、新宮
晋設計の風見鶏「虹の鳥」、玄関前には、門脇お
さむ設計の石で刻んだかざぐるまのある「感謝と
祈りの塔」(先達を偲ぶ慰霊碑)があります。

1Fの一角にミスタードーナツ江坂芳野町店が
あり、誰でも利用できます。

アメニティ江坂は江坂駅から徒歩10分です。広
い駐車場もあります。是非訪れて見て下さい。

千里丘マンションめぐり

—まちなみ委員会研修会報告—

松岡 要三
(まちなみ委員)



朝刊の折込広告は吹田市内のマンションが目立ちます。「緑の丘の……」「美しい景観の……」「新しいスタイルの生活……」と新生活への夢を描かれています。

とくに、千里丘は大規模なマンションが計画されているので、まちがどう変わるのか見て歩くということで、まちなみ委員でマンションに詳しい広村、木村両氏の企画で、7月13日に下記のモデルルーム見学会をおこないました。

購入計画を持たない14名のモデルルーム見学でしたが、主旨を申し上げると、担当者、企業によっては部長さんまでが応対して戴き、模型やPR映画を見ることができました。

とくに印象に残ったのは、各計画とも居住者の交流を考えた共用施設の充実です。新聞の折込広告では、各業者がカフェテラス、キッズテラス、森のヴィラ、スパアリーナ（温泉）、アトリエなどのキャッチコピーを使い宣伝の目玉にしています。

販売戦略が共有施設に重点を置き過ぎているような感じがしないでもありません。

A社が一階の一室をまちかどギャラリーとして市へ提供しているが、特筆に値するように思います。

景観や、緑の減少、急激な人口増加(4件で1267

表1 見学したショールーム

	敷地面積 容積率	地下・地上 戸数
ライオンズガーデン千里丘 (山田市場・レナウン跡)	9,506㎡ 262%	1F+15F 235
エールグラン千里丘 (長野西・東海銀行跡)	20,701㎡ 219%	1F+8F 421
ルネシーズズ千里丘 (千里丘上・住友銀行跡)	20,803㎡ 182%	2F+9F 278
ソフィア千里丘 (新芦屋下・名糖跡)	13,455㎡ 246%	2F+17F 333

戸)などが気になるところです。千里丘の企業用地のマンションへの転用については朝日新聞でも取り上げられ、まちづくりの課題となっています。

大きなスペースを取っている駐車場のヒートアイランド化や景観が気になる場所でした。

C社が駐車場を地下に配置していますが、他社もまねして頂きたいものです。

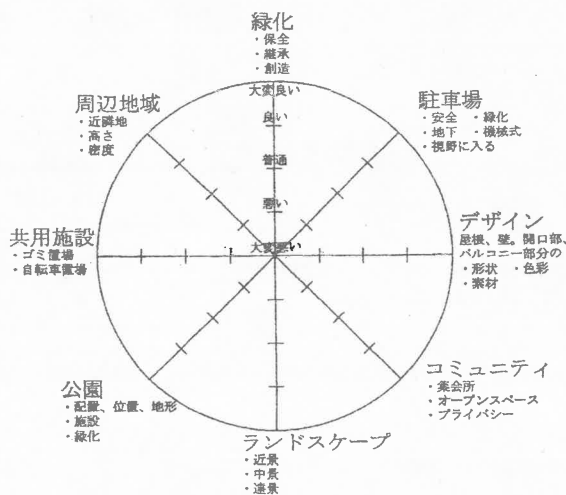
緑被率ももう少し増やせないのか、巨大な建物の圧迫感はなんとかならないのか — との想いも皆から出されました。

また、モデルルームは、別の場所に建てるきであるとの姿勢で実行している会社のあること、強い想いと優れた技量があれば、その地形を生かしたかなり特色のあるマンションの設計も可能なことも知りました。

午後の喫茶店でのミーティングでは、プロの設計者の木村さんよりマンションをどう評価するか、表2のチェックシートの説明と各々のマンションの住配置計画・ランドスケープ・アプローチの構成・共用施設の評価の説明を受け、また参加者も各々評価し、少し賢くなったような一日でした。

今、まちは事業主の考えや設計者の情熱・技量に左右されながら変わりつつあります。まちづくりにおける市民の役割、行政の役割を一から考えて見たい。

表2 評価チェックシート



三条川に残ったわずかな自然

北東端の青葉丘南

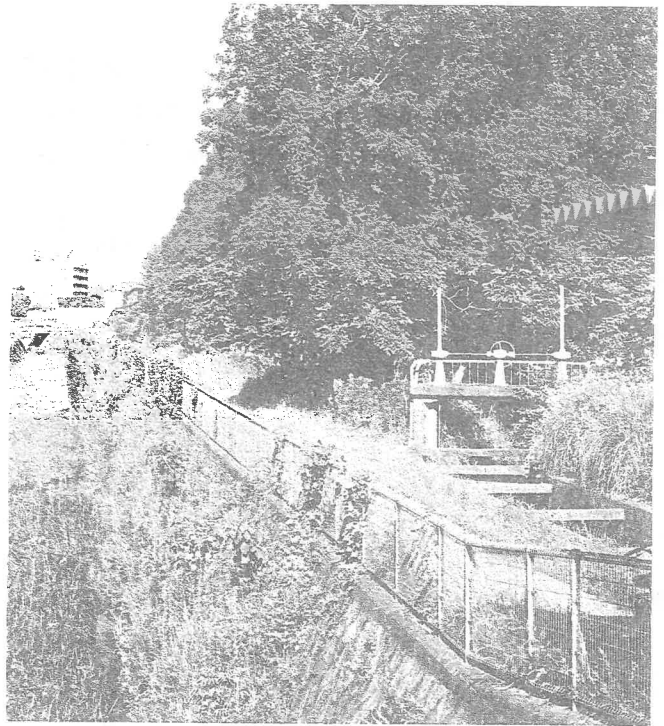
浅田都司男（まちなみ委員）

『あलック吹田』の千里丘コースから500mほど西にそれる「青葉丘南地区」の自然を紹介します。

吹田市の北東端に位置し、東側と北側は茨木市です。西の方に万博公園、南の方には毎日放送とその敷地内に千里の湯やミリカスポーツランドがあります。毎日放送へはJR千里丘駅から送迎バスが出ています。

地図中央をほぼ東西に走る小みち（太い破線）は以前は雑草に覆われた本当の緑道でしたが、昨年に気づいたときはきれいな遊歩道に変身していました。朝夕は鞆を抱えた通勤・通学の人たちや犬連れの散歩の人たちに有効利用されているようです。

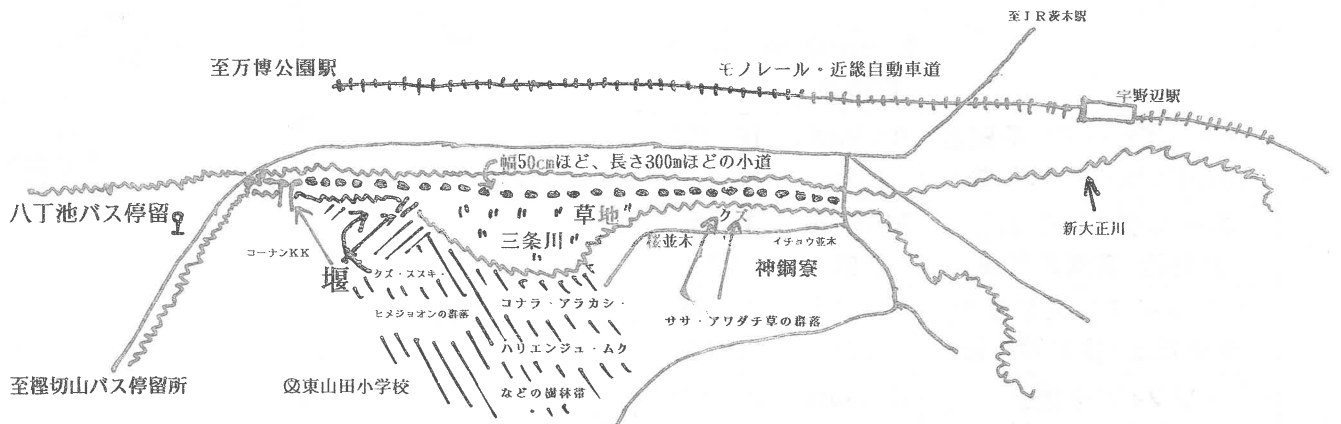
小みちの南側の三条川は川幅が平均1.5mで、所々に汚泥がたまり、水深は目測で平均5cmくらい（2つの水門で閉め切った内側の水深は30cmくらい）。北側の大きい新大正川は川幅が平均3mで水深は2~3cmくらい。付近を観察すると、ウシガエル（体長12cmくらい）1匹、アカリトンボ（体が黒く、背



小みちを挟んで、左に新大正川、右に三条川

中の白い斑点が灯火に見える）8匹を確認しました。時間をかければもっと多く発見できるかもしれません。とにかく、こんな所にもわずかながら自然は生きていと嬉しくなりました。

（2002年7月15日・記）



5年目で、確認したホタル数が過去最高

吹田に生息するヒメボタルの調査は、1998年にはじめて今年で5年目です。5月～6月中旬の46日間、毎晩8時～10時に西山田地区・高町池・高野台地区・海老池周辺を歩きながら、ヒメボタルの発光数を調べて歩きました。参加人数は平均して8～9名でした。今年は、

【初見】5月2日(1匹)

【最高】5月21日(903匹)

【最後】6月8日(1匹)

【調査日】4月25日～6月9日の46日間

【調査参加者合計】のべ376名

でした。

今年の特徴は、①例年より1週間早く初認日がきたこと、②1日の最高数が過去5年

間で最高の903匹も確認したこと、③高町池上の湿原地の発光数が他地区に比べてかなり増えたこと、などです。調査に参加したのべ376名も過去最高でした。

このヒメボタル調査は、主催が「吹田ヒメボタルの会」で実施しています。この「吹田ヒメボタル」は、すいた市民環境会議と吹田自然観察会と西山田ヒメボタルの会の三団体で構成されていますので、当会からも調査に組織的に参加しているわけです。

この調査結果を踏まえて、ヒメボタルの保護や地域自然環境の保全を吹田市に訴えています。

[高畠耕一郎・副会長]

あろック吹田の散策シリーズ

今回から2巡目の散策になります。毎回たいへん好評でした。まだ参加されていないコースがあれば、参加してみてください。

山田村コース

来年1月25日(土) 9時30分～正午頃 小雨決行

集合 阪急山田駅改札前 解散：光山寺(バス停下山田)

参加費 会員400円、非会員500円

連絡先 松岡 TEL & FAX 06-6384-8168

[まちなみ委員・田中一子]

すいたくわい

慈姑収穫祭

日時 12月7日(土) 10:00～12:00 (雨天中止)

場所 紫金山公園の北東角にあるメダカの田んぼ(あびにょん保育園の裏)

駐車場 吹田市立博物館駐車場を利用してください。

参加費 200円(昼食にも参加する場合は300円)

持ち物 水筒、慈姑の入れ物、タオル、雑巾と着替え(泥水で汚れます)あれば便利なものは長靴、小さなスコップ、炊事用ゴム手袋

昼食(オプション) 紫金山公園に移動し、里山作業の昼食のブタ汁にスイタクワイを混ぜて、一緒にいただきます。白飯と汁椀を持参のこと。

参加申し込み先 06-6319-0630 ビオトープ委員・小田まで

シンポジウム
報告

私たちに何ができるか in 吹田

—地球温暖化防止とエネルギー削減のために—

すいた市民環境会議は、「地球環境NGOネットワーク関西」と共催で、10月27日(日)市立女性センターにおいて「シンポジウム・私たちに何ができるか in 吹田」を開催、約70人が参加しました。これは地球温暖化防止のために、「私たち市民一人一人に何ができるのか考えてみよう、事業者や行政とお互いにどうしたらよいか話し合おう」と企画されたものです。

阪口市長のあいさつのあと、コーディネーターの山田國廣さん(京都精華大学教授・すいた市民環境会議顧問)から、「日本の地球温暖化ガス排出量、年間13億7千万トンの削減の取組みは総力戦・持久戦であり、あらゆる層が取組んでじわっと効果を生むもの。みんなでいい知恵を出し合って一歩前に進みたい。無関心層に拓げるためには人材(地域リーダーの育成)・若干のお金(助成金など)・ツール(環境マネジメントなど)・仕組み(条例)の4つの力が必要」と問題提起がありました。



▲コーディネーターとパネリストのみなさん

●いまやっていることは? ⇒課題・阻害要因は?

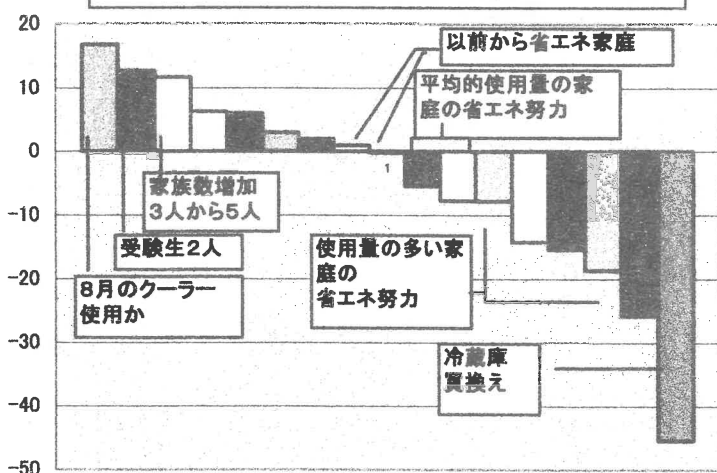
まず6人のパネリストが具体的取組みの現状と課題について発表しました。

・中本美智子さん(市民・家庭の環境マネジメント参加者) = ごみなど環境問題に関心があったが見えない物質CO2の削減方法がわからず「環境家計簿」(家庭の環境マネジメント)の活動に参加。

「今まで無関心だった母が実行してくれて、前年比較など具体的な数字としてCO2が見えてきました。」⇒環境への影響が目に見えないことが問題。CO2削減効果を風船の絵(体積)で表してみたらどうか。自治会ごとの削減目標は立てられないか。スーパーのお客はコスト意識も必要。レジ袋代、トレー代など明記したらどうか。

・平軍二さん(すいた市民環境会議) = 生活環境委員会が推進する「家庭の環境マネジメント活動」の紹介と、1年間の取組み結果(左図)を小田会長作成の

グラフ 取組み結果 電気使用量前年比(個人別)



◀全体の前年比は6%減となりました(オール電化・太陽光発電をした方、データ月数が少ない、途中参加の方などを除いた場合)。グラフは前年と比べた個々の増減。上に出ているのが増えた人、下に出ているのが減った人です。増えた人は家族が増えたり受験生がいるなど増える要因があったようです。

減った人は冷蔵庫などの買い替えで省エネ型を購入し大きく減らした方もありますが、各々が取り組んだマニュアルにより減量に成功したようです。

★家庭の環境マネジメント参加者 募集中 地球温暖化防止のために——ここから、まず一歩

あなたも、すいた市民環境会議の「家庭の環境マネジメント活動」に参加してみませんか!

期間 2002年11月から2003年10月までの1年間

新規参加者のためのオリエンテーション(説明会)を下記のとおり開催します。

とき 11月9日(土)13:30~15:00

11月29日(金)13:30~15:00

ところ 市民会館5F NPO室 もちもの 筆記用具

申し込み先

喜田 Tel 06-6330-0305 Fax 0376

西川 Tel&Fax 06-6877-9734

ワーポイントで発表。⇒「個人でやっていることが地球環境に及ぼす影響として見えてきた。環境マネジメント活動を拓げるためには地元企業との協働、市のサポートが不可欠。子どもたちへの取組み（環境教育）ももっと必要だ。」

・山田稔さん（アサヒビール吹田工場エンジニアリング部長）＝燃料ボイラーにメタンガスを利用し CO2 排出量を削減。仕込みの際の熱回収、排水再利用、発酵の過程から出る炭酸ガスの回収、また工場緑化、社員の環境家計簿の取組みなどについて紹介。（なるほどビールには炭酸ガスはつきもの！）⇒「削減をやりすぎてビールの品質を落とすことはできません。」

・友田文夫さん（ジャスコ南千里副店長）＝現在5%の実行率のマイバッグ運動は3年後までに30%を目指すとして紹介。（レジ袋は現在280億枚。石油200㏩ドラム缶換算では483万本、一人あたり年間220枚も使っているそうです。）配送の効率化と車両のアイドリングストップ、植樹に力を入れている。⇒レジ袋は活用できるので貰うと言う人が多く、削減効果が見えにくい。「お客さま次第なのに命令することはできないし、リサイクルにはお金と人手がかかります。」

・三浦正紀さん（吹田市環境室長）＝このシンポジウム企画について「ローカルアジェンダ立ち上げの時やろうと思っていたのに、先を越されたなあ」と一言。市の内部的な取組み「エコ・オフィスプラン」「環境マネジメント」について紹介。昨年度は450万円のコスト削減と職員の意識変革ができた。⇒「人・物・カネが不足。市の担当者の人数が少なく、盛りだくさんの課題を抱えているんです。」NPO・自治会など外部とのコミュニケーションが課題。

・奥田孝史さん（大阪府環境農林水産部環境管理課）＝府域のCO2排出量の現状（90年度5160万㏩→99年度5116万㏩に減っている）について紹介。産業部門からは18%減少しているものの、私たちの生活に直結する民生部門（家庭・事務所）からは22.5%増加。「温暖化が話題になってもまだ伸び続けていて未恐ろしいものがあります」。⇒地球温暖化なのになんで府がやらなあかんのという認識からの出発だった。地域リーダーを核にして進めていこうと温暖化防止活動推進員を募集した。お金がないのでマンパワーで補いたい。

以上について山田さんは次のようにコメント。「お役所の話は身につまされます。取組みにはお役所のマンパワーでは足りない。かといって、都合良く市民パワーを安く使えると思ってもそう

はいかないでしょう。市民パワーとつきあうノウハウについてもいまは実験中。スーパーなどの取組みについても、いろいろな人がいるということ認識し運動を進める必要があります。また、炭酸ガスでおいしさを付与してビールが作られているということだし、必要なものは使う、無駄なものは減らすことが肝要ではないでしょうか。」

●会場からの提案とまとめ

会場からの提案についていくつか挙げてみると、
・自治会単位で削減量を集計してエコポイントなど報奨金を出したらどうか⇒吹田市の三浦さんから「自治会に入っていない人も多く公平にできるかが課題。環境保全は子孫への投資という考えも必要ですね」という答えでした。

・太陽光発電・電気自動車の普及を進めてほしい⇒大阪府の奥田さんから「市民協働発電など、やりたくてもできない人がどこかに屋根を借りて実行する方法もあります」との方法が示されました。（府立高校の屋根などでできたらいいですね。）

山田さんは、会場からの提案も含めて以下のようにまとめられました。

「13億7千万㏩の温暖化ガス排出量の25%（民生+家庭系+マイカー+廃棄物）は家庭での努力で減らせるものです。また、植林などによる削減も可能で、吹田でもあきらめてはいけな

いと思います。屋上緑化などデータを採ってアピールしていく必要があるでしょう。自治会、労働組合、生協（ここはかなりやっているね）など団体で環境マネジメントに取り組めないでしょうか。また、市は中小企業のISO14001取得支援について具体的実行策を出すべきでしょう。問題提起で述べた4つの力（人材・お金・ツール・仕組み）は市民とのパートナーシップを組まないといけない。できない話からでなく、できる話を出しあおう。仲良くしながら言いたいことも言って、喧嘩もする。実験しながら実績をあげながら作り上げていくべきでしょう。まさにこのシンポジウムのように。きょうは分析と課題とアイデアが出たという実感を持ちました。」

* * *

シンポジウム会場は、「温暖化をどうにかして欲しい」という熱気に満ちていました。問われているのはこれからです。緑の再生も、まちづくりも、環境マネジメントも、すいた市民環境会議がしてきたこと、しようとしていることが、温暖化をくい止める力になっていることを実感できたシンポジウムでした。（文責：喜田久美子）

循環型社会をめざしてー総括シンポジウム02

12月15日（日）13:00~16:30 大阪産業創造館6階

主催 地球環境NGOネットワーク関西

コーディネーター山田國廣さん パネリストに小田忠文会長参加

ヒドリガモ (緋鳥鴨)

カモ科

ひら 平 軍二(生き物委員会)

晩秋になるとあちこちにあるため池に姿を見せるカモの仲間、そのうち吹田市内で最も数多く良く見られるカモはヒドリガモである。カモの仲間の多くは夏の繁殖期を北国ですごし、冬の間非繁殖期に暖かい南国に戻ってくる冬鳥であるが、ヒドリガモもシベリアなどユーラシア大陸亜寒帯～寒帯に広い繁殖域があり、秋になると日本～アフリカ北部など温帯～熱帯に戻って越冬する。

ヒドリガモは嘴から尾までの体長が48cm、オスは頭～頸・胸が赤褐色で、額～頭頂がクリーム色、背中～脇は灰色で黒い斑点が密にあり、嘴は灰青色で先端が黒いカモである。ヒドリガモの名前は頭の赤褐色を緋色としてつけられたものらしく、江戸時代初期にはヒドリと呼ばれていて、その後ヒドリガモとなったようである。

目の回りから後方に緑色の斑を持つ近縁種のアメリカヒドリは、繁殖地がアラスカ～カナダなど北米大陸で、越冬地を中米に持つため日本に渡ってくることは稀であるが、両種の繁殖地が隣接しているベーリング海峡付近では交雑することがあるらしく、両種の間色に変化した個体アメリカヒドリのなヒドリガモを見かけることがある。



ヒドリガモは冬鳥として10月頃から日本に渡来し始め、12月に数が最大となりそのまま冬をすごし、春3月になると帰り支度に入り4月後半にはほとんどいなくなる。冬の間、ヒドリガモは日本全国の湖沼・池・河川・海岸などに生息しているが、「ピューィ・ピューィ」と口笛を吹くような声で鳴き交わしつつ水面に波紋を描きながら群で泳いでいる。

吹田市では千里北公園の蓮間池に50羽をこえる群が毎年観察されており、水遠池・王子池・高町池などの池、更に高園町～岸部南にかけての安威川にも数多くいる。毎年1月、全国一斉にカモ調査が実施されていて大阪府内でも300ヶ所以上の池や川でカモの数を調査しているが、府内全域では毎年5000羽以上のヒドリガモがカウントされ、ホシハジロに次いで数の多い種となっている。

ヒドリガモは通常、水辺の草や水中の水草を餌にしているが、吹田市の池にいるヒドリガモは、池の近くに住む鳥好きの人たちが与えている餌(パンなど)を主食にしていると思われる。鳥に餌を与えることの是非についてはいろんな考えがあり結論を出しにくいですが、餌を与えることで池にすむカモが増え、そのカモが多くの人々の心にやすらぎを与えていることを思うと、冬の餌やりはやむを得ない状況かも知れない。

身近な池にカモなど冬鳥が多くなり、林の木々の葉が落ちて鳥が見やすくなる晩秋から真冬は、バードウォッチングが最も楽しい季節です。ポケットカイロを忍ばせて身近な公園の林やため池を歩くと、鳥たちがにっこり笑って迎えてくれるので、心の底からほのほのとした感じになります。

(02.9.17)

2002年度 会費納入者

2002年4月1日～2002年10月25日（敬称略）

正会員（新入、個人・団体） 池田明義、角野綾子、滝川厚子、中川順子、西川保、
小出永子、坂本恵、伊藤昌一

正会員（継続、個人・団体） 安封久美子、伊藤勝子、磯田栄子、宇都宮正則、塩川哲雄、
奥山悦男、岡部佐内、加藤俊二、海原登美子、間瀬彩月、橋口健一、古谷啓伸、後藤寿満
子、香月利明、高桑常子、黒田悦三、三輪信哉、山上光枝、山田國廣、治村嘉寿子、
柴田晃、秋山こずえ、出原正道、小池淳一、小田信子、小田忠文、小林幹生、松岡要三、
上田万吉、真壁映子、須賀井やすみ、菅原節子、清水由紀子、西川たけお、西川整子、
西尾熱子、青木タミコ、川口雅之、前屋舗弘之、草野弘靖、村住和子、巽京子、
竹内美由紀、中井桂子、中松美智子、中村小夜子、中尾忍、中尾久美子、長坂孟重、
長谷川達海、長谷川美津代、天野正子、田口實、田中脩、田中一子、田面郁次、藤村修、
熱田克子、播磨真津代、彦坂利久、武田義明、伏木章、福永美代子、平軍二、堀節子、
本地綏子、木下嘉清、木下宏子、木村雄次郎、邑本恵子、鈴木和子、浅田都司男（～03）、
岡村昇二、西谷玉枝、南田順子、岩溪恭子、大越好子、喜田久美子、佐藤和子、由井昭徳、
山本富雄、大江尚子、寺尾恵子、小川敏津子

正会員（継続、法人） 小儀動物病院

購読会員（新入） 松浦一志、松浦登美枝、森田幸子、西村秀美

購読会員（継続） 伊藤隆子、稲波誠、越智清光、榎原貞子、奥谷正実、横山正和、
河面堯、梶山佳代子、岩島妙子、喜田啓之、宮崎恵子、橋本英樹、金子誠一、栗本修滋、
栗木祐子、古屋美千代、佐伯千賀子、坂本喜久子、阪上靖子、三崎敬二、山下宗一、
山岸貞造、山口克也、山田千穂子、市川貴美代、児玉恵美子、寺西由美子、小儀賀代、
小室千恵子、小松孝子、小田定子、森邦子、水谷訓子、杉浦隆子、杉林百合子、瀬屋好治、
瀬川勝、瀬川和子、西埜弥生、西木勲、石原真弓、赤堀栄子、川井悠子、太田英子、
丹羽ミネ子、竹内孝之、楠元美智子、筆前祐子、桧垣美佐枝、浜田政夫、武藤正治、
平田敏、平田賢一、北村英一、北村正子、有田亮一、鈴木真世、鈴木節子、濱口和子、
武田ゆき子、中島康博、松田遼、水井賢治、鈴木とみ子、北尾賀永子、鈴木たつ江

2002年10月25日現在の会員数

正会員（個人132人・団体0・法人4社） 購読会員（110人） 賛助会員（0人）

★ 封筒の宛先ラベルの下段に入金済みの年度を記入していますのでご確認ください。

表示例：（02～04年度）は2004年度分まで入金済みです。

★ 2002年度会費未納の方は入金をお願いします。

会員の種類、会費金額、郵便振込先は表紙の題字下に掲載しています。

★ 会費についてのお問合わせ、会員の種類変更などは

会計 橋口TEL 06-6872-0208（夜間のみ）、FAX 06-6872-0208（終日受信）まで。

ご寄付をいただいた方々 2002年4月1日～2002年10月25日（敬称略）

古谷啓伸（4,000円）、大越好子（1,000円）、菅原節子（3,000円）、匿名（2,000円）、
ジャスコ南千里店・イエローシート（5,449円）

今話題の原子力発電所を見学しませんか？

見学に出かける前に原発とは何か・問題点は何かを学習しましょう

1. 原子力発電を学ぶ…反対の立場から

日時 2002年11月16日(土)10:00~12:00

場所 吹田市民会館

講師 末田一秀さん

「大阪府職員、反原発新聞の世話人など環境NGOで活躍中」

2. 美浜原子力発電所見学 先着40名

(関西電力提供のバス)

日時 11月30日(土)7:50~18:00

集合 7:50 吹田市役所正面玄関

8:00 阪急山田駅前

3. 参加費 1.2. 合わせて2,500円

4. 申し込み先 中村 090-8375-0647

最近の主な活動報告

7月23日24日 大木名札の取り替え作業

8月11日 藤白台のピアノ池でヒメガマの刈り取りに参加

8月19日 ジャスコ南千里店で親子紙すき教室に協力

8月21日 大阪市都島区まちづくりワークショップにまちなみ委員会が講師として出席し、『あलック吹田』作製の経過を話した。

8月25日 大阪府の環境保全に対する意識啓発推進事業に応募し、合格した。

8月31日 春日地区で秋の七草観察会。12名参加

9月7日 環境家計簿のグループ監査。25日と10月5日にも監査

10月26日27日 江坂公園で開催された吹田市緑化フェアに参加した。展示とどんぐりクイズなど

10月26日 あलック吹田散策 垂水コース 17名参加

【訂正】前号のあलック吹田の散策シリーズ「南千里」の中で、「綿のようなもの……プラタナス」という記述がありますが、「プラタナス」でなく「ポプラ」です。

本号は11月13日までに配達を完了する予定です。遅配された場合は古谷(☎06-6387-2139)まで連絡をいただくようお願いいたします。前号26号は8月10日頃に配達しましたが届いてない方も連絡をお願いいたします。

編集後記 編集長を仰せつかって2年半が過ぎました。この間、1号あたりの頁数が17。すみずみまで読もうとする人には量が多すぎます。しかし、関心のある記事だけを読もうとする人からは「前号は12頁で、関心のある記事が少なくてさびしかった」との感想をいただきました。

会報誌は活動の報告と連絡が主な目的であるという考えと、全会全体のレベルアップを図る記事こそ大切であるという意見もあります。また、現在は3ヶ月毎の発行ですが、情報伝達の迅速化のために隔月発行にしてほしいとの要請もあります。

原稿を期限なしで募集しています。年4回の発行です。身近な自然環境・歴史的文化的環境・生活環境を保全・回復・創成する趣旨の内容であれば問いません。文字数の標準は800文字以下です。